

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway
Gordon (Sydney) N.S.W. 2072
PO Box 292 Lindfield
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au

<http://www.hongwanji.com.au>



2017年度のお盆法要を つつがなく終えました！



お盆法要にお参り下さった皆様：前列左より渡部由信君、頌君、中列左よりデイビッドソン・ピクターさんとジルさん、ニルソン・ラドナー・マックスさん、渡部開教使、平田まゆみさん、永井三江子さん、後列左より武田静子さん、高橋文絵さん、フong・ラズロくん&ノーマンさん、三井ブラウン綾子さん、黄Leoさん、陳秋媛さん、渡部亜美ちゃん、(20/08/17;撮影by由紀美)



焼香される永井三江子さん(20/08/17)

去る8月20日に、今年度のお盆法要を20人のご縁ある皆様と一緒にお勤めすることができました。

今回は、初めてお参り下さった四人(武田静子さん、高橋文絵さん、ニルソン・ラドナー・マックスさん、堀出美代子さん)を迎え、挙式を控えているレオ君と婚約者のアキさん、以前の事務所にお参りし始めて下さっていた平



お盆法要のお荘厳が成されたご本尊(12/08/17)

田まゆみさん、永井三江子さん、そしていつもお参り下さる三井綾子さん、デイビッドソン夫妻、フong親子のお二人といった皆さんがお参り下さり賑やかなお盆法要となりました。

皆さんを歓迎する言葉の後、真宗宗歌を歌い、続いて阿弥陀経のお勤めをしました。読経の後には、一人一人にお焼香して頂いた後、子供たちへお盆の起源となったお話しをしました。

お釈迦様がご在世の時に、10人の秀でたお弟子さんがおり、その中の一人、神通力第一の目連尊者というお弟子さんのお話です。ある日、目連は神通力を使い、優しく母を捜しました。天上界にいたと思っていた母は何と地獄界の餓鬼道に落ちていて、骨と皮だけになっているのを見つけだしました。目連は急ぎ食べ物を与えようとするのですが、差し出す物は全て燃えてしまい途方に暮れてしまいます。

どうしたらいいのか相談してきた目連にお釈迦様は、「息子のお前には優しくしたお母さんではあったが、他の人と分か

(2ページハフづく)

もくじ

2017年お盆法要	1-3
お寺の予定表	1
お盆の法話	1-2
今月のことば	3
チベット首相講演会	3-4
シドニー寺院建立祈念マラソン	4
祥月の案内	4
ご懇念録	4

★ お寺の予定表 - Calendar ★

Sep	3	(Sun)	11:00 am	九月祥月法要/September Shotsuki Memorial Service
	6	(Wed)	11am	Dana Day at Phuoc Hue Temple / フォクフェ寺盂蘭盆会
	9	(Sat)	11am-6pm	Matsuri in Willoughby 2016 / ウィロビー日本祭り
	10	(Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
	17	(Sun)	7:00 am	平和と寺院建立祈念シドニーマラソン/Sydney Marathon
	21	(Thu)	2:00 pm	合同教会にて国連平和の日の集い/UN Peace Day Service
	24	(Sun)	10:00 am	カウラ桜祭戦没者法要/Cowra Service of Respect
	17 & 24	(Sun)	<	休座 - No Service - >
	25	(Mon)		[本願寺報発行 / New Bulletin Issue]
Oct	1	(Sun)	11:00 am	十月祥月法要/October Shotsuki





「いつも見まもっていて下さる方々を思い出し、自分の命の行方がお浄土であることを改めて確認させて頂くご縁として、お盆法要をお勤めさせて頂いているのです。」
(お盆法話より)



開教事務所入口に置かれたお盆法要の案内



ち合うことをしなかったために餓鬼道という地獄に落ちなければいけなかったのだ。」と説明され、「お母さんに代わり全ての人たちに食べ物に施すことによりお母さんは救われて行くであろう」と説かれたのでした。

その言葉に従い、夏の勉強会の終わった日にお釈迦様のお弟子さんみんなを招待し、沢山の食べ物を施したのでした。

それにより、お母さんが救われて行ったのを見て、目連は小躍りし喜んだのでした。そして、それが盆踊りの起源となったのでした。「自己中心で、自分だけの事ばかり考えないで、みんなのことを考えるようにしましょう！」ということをごにこで私たちに教えています。

とのメッセージを子供たちはしっかり受け止めてくれました。

そして日本語法話では、お盆の語源となったお盆の話を如何に私たちは受け止め味わうべきかについて次のようにお話しさせて頂きました。

皆様、本日はようこそお盆法要にお参り下さいました。先ほど子供たちにお盆のいわれをお話し致しましたが、皆さんもよくご存じのように、お盆は、お釈迦様のお弟子様の一人、目連尊者と、そのお母様の話が起源となっています。

このお話の中で考えてみたいことは、目連尊者のお母さんがどうして餓鬼道に落ちなければいけなかったのか、ということです。

今の飽食の時代に比べ、昔は、本当に食べ物の不自由な時代がありました。私の大学時代の先生のお話ですが、先生が小さかった頃、お母様がよく美味しいお菓子をよく下さったそうです。その時、「外に出て食べたいけん。よその子が欲しがっても、その子にやるだけないんじゃけん。家の中で食べるのじゃ。」と言われたとのことでした。わが子だけに食べさせたいのですね。先生のお母様はお念仏を喜ぶ方でした。わが子であるこの先生にいつも仏様の有り難いお話を下さったとのことでした。南無阿彌陀仏の教えに出遇わなかったら、わが子を育てる



目連は餓鬼道に落ちていたお母さんの元に駆け寄り、いくら食べ物を口に運んでも全て火に包まれてしまいたべることが出来なかったのです



一緒に讃仏歌を唱和する参拝者の皆さん (12/08/17)

ためにこのお母様は餓鬼道に落ちていることなのでしょう。先生は本当にお母様にはいつまでも頭が上がらなかったとのことでした。

お釈迦様は、『孟蘭盆経』に「道眼をもって世間を見る」とお説きになられています。真実の智慧の眼でこの世の中をありのままに見れば、人間の行いは全て自己本位であり、母が子供を育てることも、悲しいかな、よその子供よりわが子が少しでも勝っていれば幸せと思ひ比べて喜ぶのです。比べて喜ぶ子としかできない私たちの姿は悲しい限りです。でも、そこから逃げることも出来ないのも私たちであります。

桐溪順忍(きりたにじゅんにん)和上が、『父母恩重(ぶもおんじゅう)経』の中の「為造悪業」という言葉を説明されて、「子供のために母はどれだけ罪をつくるか計り知れない」と述べておられるのを読んで、私の先生は涙が出て仕方がなかったそうです。自分の子ゆえに迷う親心、子供のために親は罪を作り続けるのであることを知る時、母を餓鬼道に落とすのはこの自分であったのだ、ということに気付くことなのでしょう。親は、わが子を一人前に育てるために餓鬼道に落ちる。唯々、頭の上がらぬ私と知らされるのです。如来の悲願に出会うこと以外に、親子同時に助かる道はないのです。その、大いなる如来の大悲に感謝するお盆会であることと念じている次第です。

浄土真宗のみ教えに生きる人々(ご先祖)は、お盆の時に帰ってきて子孫の供養を受けるようなことはありません。阿彌陀如来の本願力によって、さとり世界であるお浄土に生ま



ご本尊前で焼香するピクターさん



お焼香する高橋文絵さん

(3ページにつづく)

れ、常に私たちを見まもり導いて下さっているのです。しかし、私たちは毎日忙しくしていてそのことを忘れてしまいがちです。そこでいつも見まもっていて下さる方々を思い出し、自分の命の行方がお浄土であることを改めて確認させて頂くご縁として、お盆法要をお勧めさせて頂いているのです。今日その有り難いご縁に遇えたことを喜び、お念仏し、阿弥陀様のおはたらきに感謝させて頂きましょう。

無事に法要を終え、仏前で全体写真を撮った後は、待ちに待ったお斎の時間、皆様が持ち寄り下さったご馳走を堪能させて頂きました。お昼をご用意頂いた、デイビッドソン・ピクター&シルゴ夫妻、三井ブラウン綾子さん、フォング・ノーマンさん、武田静子さん、高橋文絵さん、ニルソン・ラドナー・マックスさん、堀出美代子さん、平田まゆみさん、永井三江子さん、多田将宏さん、ウォング・レオ&チャン・アキさん、そして家内の由紀美へお礼申し上げたいと思います。そして、一緒に集ってくれた子供たちーラズロ・フォング君、そして我が家の、由信君、亜美&鈴ちゃん、頌君ーようこそそのお参りでした。

この日お参り下さいました皆さんのお陰をもちまして、今年度のお盆法要も無事に終えることが出来ましたこと本当に有り難く思っております。また今後の法要もどうか宜しくお願い申し上げます！

合 掌

オーストラリア開教事務所 所長 渡部重信



お持ち寄り下さいましたお斎に舌鼓を打たせて頂きました！ご馳走様でした！(20/08/17)

今月のことば

金剛心は菩提心
こんごうしん ぼだいしん

この信すなわち
しん たりき

他力なり

親鸞聖人 しんらんしょうにん
一一七三年〜一二六三年



Shinran Shonin
(1173-1263)

*The diamondlike mind
is the mind aspiring for
enlightenment,
and this mind is itself
Other Power.*



(真宗教団連合刊「2017法語カレンダー」より)



チベット首相

ロブサン・センゲ氏の特別講演会に出席

於：シドニーオペラハウス

2017年8月5日(土)

SATURDAY 5 AUGUST | SYDNEY OPERA HOUSE | THE STUDIO | 6 PM - 8 PM

TIBET
in the
21st
century
POLITICAL
ENVIRONMENTAL
CULTURAL &
ECONOMIC
CHALLENGES



IN CONVERSATION WITH
PRESIDENT LOBSANG SANGAY

Dr. Sangay has been the democratically elected political leader of the Central Tibetan Administration (CTA), ever since His Holiness the 14th Dalai Lama devolved his political power in 2011. Join him on this special evening as he addresses some of the key challenges for Tibet.

The fate of Tibet's unique national, cultural and religious identity is being seriously threatened and manipulated under China's communist regime. The international community should stand behind Tibet in its quest for a peaceful solution based on the Middle Way Approach, which states that Tibet will seek genuine autonomy and not independence from China.

Hear more on the topic and participate in the Q & A with President of CTA and Harvard Law School graduate Dr. Lobsang Sangay.

BOOK NOW AT SYDNEYOPERAHOUSE.COM
TICKET PRICE \$35 - \$40



(左) センゲ氏の後援会のポスター、(右) センゲ氏をインタビューするSBSテレビアナウンサーでもあるリス・ディープ・ジョーンズ(Ms Liz Deep-Jones)さん(05/8/17)

キャンベラ在住のダライ・ラマ法王オーストラリア代表部事務所代表のラクパ・ツォコ氏からの招待で、去る8月5日にオペラハウスの「The STUDIO」という小ホールを借りて行われた、ロブサン・センゲ・チベット首相の「21世紀にむけてのチベットの政治・環境・文化・経済」を語る特別講演会に出席して参りました。



センゲ首相とダライ・ラマ師

センゲ氏は、チベット問題の平和的・非暴力的解決を望むダライ・ラマ14世の立場を尊重し



センゲ首相と(05/8/17)

(4ページにつづく)

ており、2011年の首相を選ぶ民主的な選挙で当選し、首相(首席大臣《カロン・ティバ》)に就任。翌2012年第15期チベット亡命政権議会は『亡命チベット人憲章』を改訂し、首相の称号を「政治最高指導者《シキョン》」と改め、その初代の座に就任された方です。



ラクパ氏(右)と共にセンゲ氏(中央)を囲んで(05/8/17)

センゲ氏は1968年にインドの西ベンガル州ダーズリン郊外のチベット人亡命地区にて生まれました。彼の誕生日は、公式書類上では3月10日となっていますが、これは、1959年にチベット隆起が発生した日から取ったもので、正確な日は本人も知らないそうです。このことについて彼は「自分の誕生日すら知らないという事実に、私がどんな人生を送ってきたかが集約されている」と語っています。

しかし、その大変だった生い立ちからは想像できないほど彼の話す内容はポジティブで、ユーモアに溢れたもので、聞く人たちを笑いの渦に巻き込んでいました。彼のインタビューを務めたリズ・ディーブジョーンズさん

も、彼の発する楽観的かつダライ・ラマ師より薫陶を受けた智慧ある言葉の数々に笑いをこらえきれなかったり、感銘を受けたりしながらのあっという間の90分間の講演会でした。この有り難いご縁を下さったラクパ・ツォコ氏に深くお礼申し上げます。 合掌



講演会終了後、センゲ氏に花束を贈呈した、リン・サウンダーソンさん(右)さん(05/08/17)



42.195
KMS

平和と寺院建立祈念のための

シドニーマラソン参加

9月24日(日)午前7時



来たる9月17日(日曜日)に行われるシドニーマラソンに渡部開教使が出走します。



世界の平和と、オーストラリアでの寺院建立祈念の為に走るこの

イベントに寄付をと思われる方は、「Peace Run」と明記された上で下記口座までご入金下さるよう宜しくお願い申し上げます。

Account name: Hongwanji

Buddhist Mission of Australia

BSB No: 032-197

Account No: 48-1501

Description: Peace Run



九月の祥月法要

September Shotsuki Memorial Service

Okuyama, Ayako

Natsume, Emiko

Hayashi, Masao

奥山 綾子 様(2006)

夏目 笑子 様(1988)

林 正男 様(2003)

上記の方々が9月に祥月を迎えられます。ご家族、或はご縁のございます方は、来月9月3日午前11時に、お勤めされます祥月法要にどうぞお参り下さいませ。

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude



この一ヶ月間で、下記の方々より総計 980.00ドルのご懇志をご進納頂きました。また、お賽銭箱には、計36ドルが浄財として参拝者より喜捨して頂いており、これは本願寺設立基金へ進納されました。有り難うございました。 合掌

In the past month, donations to the amount of 980.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia.

HBMA members and attendants have also deposited \$36.00 in the donation box which deposited to the Hongwanji Temple of Sydney Building fund.

The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Rev George Gatenby — Special Donation towards relocation
- * Mr/Mrs Victor & Jill Davidson — Membership contribution
- * Mrs Ayako Mitsui-Browne — Special donation towards relocation and weekly contribution
- * Ms Hitomi Howard — Membership contribution and Shotsuki memorial service
- * Ms Mieko Nagai & Mrs Mayumi Price — Special contribution
- * Mr Shigeki Iikura — Special contribution
- * Mr Masahiro Tada — Obon contribution
- * Japan Club of Sydney — Printing honourarium

Thank you very much in Gassho



Rev Watanabe joined to the lecture made by
Dr Lobsang Sangay
 the democratically elected political leader
 of the Central Tibetan Administration (CTA)
 Saturday 5 August 2017 @ Sydney Opera House

SATURDAY 5 AUGUST | SYDNEY OPERA HOUSE | THE STUDIO | 6 PM - 8 PM

TIBET
 in the
21st century
 POLITICAL ENVIRONMENTAL
 CULTURAL &
 ECONOMIC CHALLENGES



**IN CONVERSATION WITH
 PRESIDENT LOBSANG SANGAY**

Dr. Sangay has been the democratically elected political leader of the Central Tibetan Administration (CTA), ever since His Holiness the 14th Dalai Lama devolved his political power in 2011. Join him on this special evening as he addresses some of the key challenges for Tibet.

The fate of Tibet's unique national, cultural and religious identity is being seriously threatened and manipulated under China's communist regime. The international community should stand behind Tibet in its quest for a peaceful solution based on the Middle Way Approach, which states that Tibet will seek genuine autonomy and not independence from China.

Hear more on the topic and participate in the Q&A with President of CTA and Harvard Law School graduate Dr. Lobsang Sangay.

BOOK NOW AT SYDNEYOPERAHOUSE.COM
 TICKET PRICE \$35 - \$40



Mr Lakpa Tshoko, Representative of His Holiness the Dalai Lama in Australia, New Zealand and South East Asia, kindly invited Rev Watanabe to be a part of the special lecture made by **Dr Lobsang Sangay** at the **STUDIO** of Sydney Opera House.



Dr Sangay was interviewed by SBS News caster Ms Liz Deep-Jones (left) during the session (05/08/17).



Rev Watanabe and Dr Lobsang Sangay after his lecture (05/08/17).



Mr Sangay's lecture took place at THE STUDIO in the SOH.



BULLETIN



Rev Watanabe wish Dr Lobsang Sangay and Mr Lakpa Tshoko (right).

Mr Sangay was very optimistic and his talk was very informative and enjoyable one influencing all the listeners.

Now we all look forward to welcoming His Holiness Dalai Lama next year here in Sydney. In Gassho,



(Top) Dr Sangay and HH Dalai Lama, (Left) Dr Sangay received a bunch of flower from Ms Linh Saunderson.



Rev Watanabe was invited to join RNSH Volunteer Appreciation Day!
 24 July 2017

Ms Anna Bosch, Volunteer Coordinator of the Royal North Shore Hospital kindly invited Rev Watanabe to join the Volunteer Appreciation Day event on 24 July. Ms Bosch expressed her appreciation to Rev Watanabe for his volunteer work during last 16 years. In Gassho,



RNSH's Chaplain team representatives (24/07/17).



Rev Watanabe and Ms Anna Bosch (24/07/17)

We all commemorate our loved ones who have already departed from us at this Obon time. However, as Jodo Shinshu followers, we shouldn't miss the essence of the Obon. Remember that if we only think about our ancestors at this time, it won't be a religious observance. Each one of us should be involved in this service. That is, we should think about and realize our own future lives. Because, we are also going to join Amida Buddha's Pure Land where our ancestors are.

There is a famous Haiku (Japanese 17 syllable poem) which describes our human world as not being permanent. It says "Chiru Sakura Nokoru Sakura mo Chiru Sakura (Cherry blossom fall, there are some left in the branches, but inevitably all blossoms fall)." There are no exceptions for anyone to live forever.

As Rennyo Shonin also wrote in his letter: **"We have not heard of anyone receiving human form which lasts for ten thousand years. The course of life ebbs very rapidly. Can a person preserve his body for a hundred years at the present time? Not knowing whether death will come today or tomorrow, those who depart from us are as countless as the drops of dew."**

Rennyo Shonin ended his message as follows: "Thus, we see that what man cannot control is the passing away of the young, and old alike. Therefore, we should all look to our future life and with deep reliance in Amida Buddha repeat His Holy Name."

Therefore, Obon is the time to think about our life and our future life, even if we are still young. In our busy everyday lives, Obon service gives us a good opportunity to think about ourselves, reflect upon our relatives or friends' passing. If we could spend some quiet time thinking about our future life, Obon becomes a very meaningful day for each one of us.

As you may notice from the passage I read at the beginning, Shinran Shonin said, **"I have never said the nembutsu even once for the repose of my departed father and mother"**. According to the story of Obon Sutra, Mokuren offered food for everyone, by his action his mother who was in the Hell of hungry demons was relieved. All living beings have been our parents and brothers and sisters in the course of countless lives in many states of existence. So, we shouldn't be selfish but think about all other lives at the same time.

Then, the question is, **"Where are we going after our present life?"** "Where is our permanent home?" Our



All attendants were proudly singing "Ondokusan" at the end of the service. (20/08/17)

life is to be compared to a journey, however we all have a mutual home to return. That's why we are able to enjoy our daily lives. This mutual home was prepared by Amida Buddha

since He became a Buddha. You would find this sentence, "Shojo Zennin Kue Issho", in Amida Sutra. This means 'those who respect Amida Buddha and rejoice in His wisdom and compassion, reciting Namo Amida Butsu are going to meet together at Pure Land.' Shinran Shonin also told his followers: **"Let us certainly meet again at Jodo (Pure Land) without fail."**



Yushin offering incense

On Obon day, we would like to express our sincere appreciation to our ancestors to let us encounter the teachings and have a precious moment to think about our future life. We are grateful to Amida Buddha for preparing our mutual home to go back. Let us recite nembutsu, expressing our appreciation to Amida Buddha for letting us have a wonderful journey in this life, and welcoming us to His Land. - In Gassho,

After the service, we all enjoyed an O-toki Potluck lunch prepared by those who attended the service. My sincere appreciation goes to **Mr & Mrs Victor and Jill Davidson, Ms Ayako Mitsui, Mr Norman Fung and Laszlo, Ms Mayumi Price & Ms Mieko Nagai, Mr Leo Wong and his fiancé Ms Aki Chan, Ms Shizuka Takeda, Mr Masahiro Tada, Ms Fumie Takahashi, Ms Miyako Horide, Mr Max Nilsson-Ladner, and finally to my wife Yukimi.** I believe that without the involvement of all those people, this year's Obon wouldn't have been so successful. I am really grateful from the bottom of my heart for all the support of each one of you for HBMA.



We all enjoyed delicious Potluck lunch!. (20/08/17)



In Gassho,
Rev Shigenobu Watanabe



Please join in to the
Cowra Service of Respect
Sunday 24 September

If you are interested in joining the Cowra memorial service which will be held on Sunday 24. You are most welcome to join in this one day trip. We have few seats left for those people. Please contact HBMA office ASAP if you are interested in!

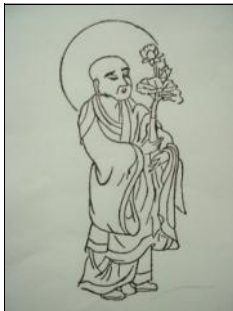
In Gassho,



2016 Service of Respect

According to the Ullambana Sutra, one day Mokuren was reflecting upon his beloved mother who had already passed away. At that time, a question came to his mind, "Where did my mother go, and what she is doing now?"

He had supernatural powers, which he had obtained through his hard practice, so he was able to see people who had already died. So, Mokuren used this power to search for his beloved mother and found her. Alas! It was a big and sad surprise for Mokuren that his mother was



Mokuren
(Maudgalyayana)



Mokuren tried to feed his mother but food was all burnt.

suffering in the hell of hungry demons. It was an unbelievable scene for him. His mother was very skinny and almost just flesh and bone. Mokuren rushed to her trying to offer some food, but all of it caught fire in front of his mother. He tried many times but nothing worked. Mokuren had no idea what to do, so, he went to see Sakyamuni Buddha.

Buddha listened to the story, and then told Mokuren why his mother had to go to such a world;

"Mokuren, your mother is suffering right now, because she did something wrong when she was in the human world".

But, Mokuren could not believe it and said;

"She was always a very kind and wonderful mother, what did she do?"

Sakyamuni said, "I know she was really a wonderful mother, but she was good only to you, not to others. Whenever she had something good, she hid it from others and gave it to you, Mokuren. Your mother never shared things with others."

Mokuren said, "Is it because of me?"

"Yes, Mokuren." Buddha replied, "She loved you too much".

Mokuren then asked, "What can I do for her?"

Buddha said, "There is a way to save your mother. Because she did not share things with others, she went to the hell of hungry demons. Therefore, if you offer and share things with others on behalf of your mother, and if they are pleased, then your mother will be all right."

In accordance with Buddha's word, Mokuren prepared many kinds of food and shared it with all the Buddha's disciples on the last day of their summer study meeting on 15 August. They ate everything and all the disciples were very pleased. Then Mokuren was finally able to see



Mr Norman Fung and his son, Laszlo offering the incense. (20/08/17)



BULLETIN

his mother's peaceful smiling face. Mokuren was very happy as he jumped and danced with joy!

Since then, every year on the same day, the same thing has been done. This is the origin of the Obon and the Obon dance.



Bon Dance in Roppongi Tokyo

As I write this article, I wonder if we are still doing the same thing as Mokuren's mother. Whenever we get something good, we don't share it with others, but only share it with our children. From the Buddha's point of view, all human actions are beset with selfishness. So we can't count how many selfish acts we make for the sake of our children, family or loved ones. These actions may commit us to the Hell of hungry demons. The only way for our salvation is to encounter the Vow of Amida Buddha; to encounter the teaching of the Nembutsu, and live the life of appreciation, embraced in the arms of Amida Buddha.

Let us recite Namo Amida Butsu showing our appreciation to Amida Buddha who works all the time for us all. - Namo Amida Butsu -

After sharing a Dharma message for children, I talked to the adults as follows.

OBON 2017

As for me Shinran, I have never said the nembutsu even once for the repose of my departed father and mother. For all sentient beings, without exception, have been our parents and brothers and sisters in the course of countless lives in many states of existence. On attaining Buddhahood after this present life, we can save every one of them. Were saying the nembutsu indeed a good act in which I strove through my own powers, then I might direct the merit thus gained toward saving my father and mother. But this is not the case. If, however, simply abandoning self-power, we quickly attain enlightenment in the Pure Land, we will be able to save, by means of transcendent powers, first those with whom we have close karmic relations, whatever karmic suffering they may have sunk to in the six realms through the four modes of birth. Thus were his words.

— Tannisho chapter 5 —

Obon is a time to reflect upon our loved ones who departed before us and show our appreciation to Amida Buddha who let them be born into the Pure Land saving all of us who encountered the teaching of nembutsu.

(Continues on page 3)

BULLETIN

Volume 18 - No. 8
28 August, 2017

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mobile : 0412-396-014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au



Successful Annual OBON & HBMA Re-Opening Service 20 August 2017



(Front row L-R) : Yushin and Sho Watanabe, (Middle row L-R) : Mr & Mrs Victor and Jill Davidson, Mr Max Nilsson-Ladner, Rev Watanabe, Mrs Mayumi Price, Mrs Mieko Nagai, (Back row L-R) : Ms Shizuko Takeda, Ms Fumie Takahashi, Mr Laszlo and Norman Fong, Mr Leo Wong, Ms Aki Chan, Ami Watanabe. Photo taken by Yukimi Watanabe (20/08/17)



On 12 August, we observed the Annual Obon service combined with Re-Opening of Hongwanji Buddhist Mission of Australia with our members and supporters. This is the fifth different location since HBMA was officially established in Australia.



We observed the first service at the new HBMA office in Gordon. (20/08/17)



We were able to observe and celebrate this very first service at this new centre in Gordon with 20 people. We welcomed four new people, Ms Shizuka Takeda, Mr Max Nilsson-Ladner, Ms Fumie Takahashi and Ms Miyoko Horide, which made this service very special! The Obon service is a wonderful occasion for rejoicing in the awakening offered by the Buddha, and this is also an opportunity to express our gratitude not only to our ancestors, but also to all who have passed on into

Inside This Issue

Successful Annual Obon & HBMA Re-Opening Service	1
Obon story for children & message for the adults	1-3
Rev Watanabe attended Dr Sangay's lecture at SOH	4
Volunteer Appreciation Day at RNSH	4

Amida Buddha's Jodo (Pure Land). Therefore, Obon is often referred as **Kangi-e** (歓喜会), which means "Gathering of Joy".

We started the service at 11am. After chanting the Amida Sutra, we took it in turns to offer incense. For the children's Dharma message, I talked about famous Obon story about Mokuren (Maudgalyayana) and his mother.



HBMA Naijin was decorated for Obon service (20/08/17).

Origin of Obon /Kangi-e

One of the ten great disciples of Sakyamuni Buddha, was Mokuren. He loved his mother, because his mother loved him very much.

(Continues on page 2)



*Run for PEACE on 17 Sep &
Run for the future of HBMA*



Rev Watanabe will join the Sydney Running Festival on 17 Sep and first time ever he will run 42.195km for the **World Peace** and also the **future of Hongwanji Buddhist Mission of Australia!** If you wish to donate for this event to support Reverend's run, please make a donation to the following account; **Account name: HBMA BSB 032-197 Account No: 48-1501 Description: Peace Run**



In Gassho,

